

メキシコ合衆国上院の招待による同国公式訪問及び各国の政治経済事情等視察
参議院議院運営委員長一行報告書

団	長	参議院議院運営委員長	山本	順三
		参議院議員	石田	昌宏
	同		塚田	一郎
	同		浜野	喜史
	同		石川	博崇
	同		仁比	聡平
同	行	委員部議院運営課長	北脇	達也
		委員部議院運営課調整主		
		幹	折茂	建
		参事	石原	淳

一、始めに

本議員団は、メキシコ合衆国上院の招待により同国を公式訪問するとともに、各国の政治経済事情等を視察するため、平成二十九年八月二十日から二十五日までの六日間、メキシコ合衆国及びキューバ共和国の二か国を訪問した。

日程は次のとおりである。

八月 二十日 東京発メキシコシティ着（二泊）
二十一日 上院訪問
マヌエル・カバソス上院アジア太平洋外交委員会理事との会談
日墨学院視察
日墨会館視察
在留邦人との意見交換
二十二日 メキシコシティ発ハバナ着（二泊）
二十三日 アントニオ・ベカリ・スポーツ・体育・レクリエーション庁長
官との会談
イレアナ・ヌニェス外国貿易・外国投資省次官との会談
ロランド・ゴンサレス人民権力全国議会国際関係委員会副委員
長及びカルロス・グティエレス・キューバ・日本友好議員連盟
会長との会談
在留邦人との意見交換
二十四日 ハバナ発トロント着
トロント発（機中泊）
二十五日 東京着

二、メキシコ合衆国

(一) マヌエル・カバソス上院アジア太平洋外交委員会理事との会談

議員団はカバソス上院アジア太平洋外交委員会理事（与党、制度的革命党）のほか、ビクトル・エルモシージョ同委員会理事（野党、国民行動党）、リリア・メロディオ同委員会理事（与党、制度的革命党）、ホセ・オリウエラ同委員会委員（与党、制度的革命党）と会談した。

冒頭、カバソス理事から、議員団の訪問に対し歓迎の意が示されるとともに、近年の議会間交流、政府間交流の活性化は、両国の友好関係の証左である。本年はメキシコにおける日本人移住百二十周年、来年は外交関係樹立百三十周年であり、今回の一行の訪問により、両国のきずなが更に深まることを期待しているとの挨拶があった。

山本委員長からは、二〇一五年に本院議長の招待により訪日したメキシコ上院議長に同行し、精力的に議会間交流を行うなど、カバソス理事の両国の友好関係への長年にわたる尽力に感謝する。近年多くの日本議員団がメキシコを訪問していることは大変有意義であり、今後も交流を続け、両国の関係を一層強化していきたいとの挨拶があった。

カバソス理事から、日本には極めて高い技術力、メキシコには若い人口構成と経験豊富な労働力があり、両国の相互補完性は高く、今後経済交流を発展させていく上で、高い潜在的可能性を秘めている。中南米カリブ地域において、既にメキシコは日本企業が最も進出している国であり、日本とはE P Aも締結している。両国は自由貿易の重要性を共有しており、米国以外の十一か国による協定発効を目指すT P P 11を推進する日本のリーダーシップを、メキシコ上院として歓迎する。メキシコも迅速に対応したいと考えており、本年末に向け、十一か国がT P P 11の署名を発表できることを期待している。N A F T A再交渉については、昨日第一ラウンドが終了したが、メキシコとしては、日本企業の利益をしっかりと守ることが優先事項の一つであり、日本企業がメキシコに投資をする際に示してくれた信頼に応えることが重要であると考えているとの発言があった。

カバソス理事の発言を受けて、山本委員長から、N A F T A再交渉では、日本企業の利益を守りたいとの温かい配慮ある発言があったが、交渉では、域内の部品調達比率を定めた原産地規則の見直しも議論になっており、交渉がしっかり進むよう期待している。T P Pについても、メキシコは前向きな姿勢と聞いており、交渉が成功裏に終わるようお互い努力していきたい。両国は、基本的な価値観を共有するパートナーであり、とりわけ近年、政治、経済にとどまらず、芸術、文化、教育の幅広い分野で良好な関係を深めている。二〇二〇年に予定している東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会（以下、「東京オリンピック・パラリンピック」という。）にも、メキシコから大勢の方が訪日されることを期待しているとの発言があった。

NAFTA再交渉の上院議員団の一員であるオリウエラ委員から、NAFTA再交渉第一ラウンドの交渉経過及び今後の交渉予定について説明があった。その中で、原産地規則について、米国は自国に有利になる変更を提案してきたが、メキシコ及びカナダは、交渉開始直後から原産地規則の変更を持ち出す米国の姿勢は好ましくないとの認識で一致しているとの発言があった。

なお、会談前に、議場等の上院施設を視察した。

(二) 日墨学院及び日墨会館視察

日墨学院は、日系人、在留邦人、日本企業、日本政府、メキシコ政府など多くの機関や個人が協力して一九七七年に設立され、本年は創立四十周年を迎える。学院では、日本・メキシコの両コースが同じ敷地に併存し、日本コース（在校生は百四十名）においては中学校まで、メキシココース（在校生は千四十九名）においては高等学校までの一貫教育を行っている。議員団は、児童生徒による両国歌斉唱及びメヒコリンダ斉唱による歓迎を受けた後、両コース間の交流授業など学院の教育課程について説明を受けた。その後、実際に日本コースの教室を視察し、児童生徒との交流を行った。

日墨会館は、日本人移住者、日系人がメキシコ人との親善・相互扶助を目的として発足された日墨協会により、一九五九年に建設された。敷地内には、文化交流会館、日本語教育施設、日本庭園、プール、テニスコート等が併設され、日系人、在留邦人及びメキシコ人の親善、交流の場として活用されている。なお、昨年は日墨協会創立六十周年であり、各種記念行事が開催された。議員団は、まず、先没者慰霊碑に献花を行い、日墨会館内の施設、日本人移住資料等を収蔵したあかね記念館の視察を行った後、日墨協会関係者との懇談を行った。

現在の極めて良好で緊密な両国の関係は、多くの日系人、在留邦人の方がメキシコ社会との懸け橋として、長年にわたり尽力を続けてきたたまものであり、今後両国の友好関係を一層強化するためにも、議会間交流に加えて、両国の懸け橋となる民間レベルの交流を一層支援していくことが重要である。

三、キューバ共和国

(一) アントニオ・ベカリ・スポーツ・体育・レクリエーション庁長官との会談

冒頭、ベカリ長官から、議員団の訪問に対し歓迎の意が示されるとともに、両国のスポーツ交流の歴史は深く、また、スポーツにおける文化的アイデンティティも野球や柔道などが盛んであり、共通点も多いとの挨拶があった。

山本委員長からは、すばらしい柔道家でもあり、両国のスポーツ、文化交流の懸け橋となっているベカリ長官に感謝する。二〇二〇年に予定している東京オリンピック・パラリンピックに、キューバから大勢の方が訪日されることを期待しているとの挨拶があった。

ベカリ長官から、キューバも東京オリンピック・パラリンピックに向けて準備を進めており、日本の草の根文化無償資金協力も活用している。また、在京キュー

ーバ大使とも事前キャンプ地について話しており、大会までに両国の関係を一層強化できるよう努力したいとの発言があった。

ベカリ長官の発言を受けて、山本委員長から、日本全国の自治体が事前キャンプ地の誘致に力を入れており、誘致した自治体と相手国のきずなが深まるよう、今後、いろいろな分野で仕掛けを考えていきたいとの発言があった。

ベカリ長官から、本年十一月にキューバで開催する、第七回体育・スポーツ国際会議について紹介があり、日本の代表団の参加も期待しているとの発言があった。

(二) イレアナ・ヌニェス外国貿易・外国投資省次官との会談

冒頭、ヌニェス次官から、議員団の訪問に対し歓迎の意が示されるとともに、近年の要人往来の活性化が両国関係の強化につながっているとの挨拶があった。

山本委員長からは、両国の要人往来が活性化し、両国関係が従来とは違ったスピードで動いていることを嬉しく思うとの挨拶があった。

ヌニェス次官から、昨年十一月に開催された第二回日本キューバ官民合同会議では、今後の両国間の経済協力に関する中期計画を策定することで合意した。本計画は今後キューバが取り組む経済改革である、二〇三〇年に向けた経済社会開発計画の重要な要素を構成する。重要なセクターと考える、観光、再生エネルギー、インフラ、運輸などの分野で日本からの投資を誘致し、一九七〇年代（日本から様々な物品が輸入され、キューバにおいて日本の評判が高かった時代）の関係を再び構築したい。また、日本は毎年ハバナ国際見本市に参加し、大きな存在感を発揮しており、今年の参加も期待している。開発協力についても、日本からの無償資金協力を利用しており、感謝している。今後も両国が、貿易面、投資面で重要なパートナーとなることを目指していきたいとの発言があった。

ヌニェス次官の発言を受けて、山本委員長から、昨年十一月の第二回日本キューバ官民合同会議においてマルミエルカ外国貿易・外国投資大臣が、直接日本企業に投資を呼び掛け、両国の経済・通商関係の拡大を目指すことを宣言するなど、両国間の政治・経済関係は、今後十年間で従来にないスピードで深化していくことが予想される。現在キューバに進出している日本企業は僅か二十社であり、両国がしっかり協議を重ね、日本企業が直接キューバに投資できる環境を整えることが重要であるとの発言があった。

ヌニェス次官から、日本人観光客を増やし、一九七〇年代にあった日本ブームを取り戻したいとの発言があり、山本委員長から、日本人が何を求めているかよく調査するなど、より受入体制が強化されれば、今後日本からの観光客も増加するとの発言があった。さらに、ヌニェス次官から、日本の観光業からキューバへの投資があれば、日本人が求めているサービスも提供できる。観光振興と投資の促進を結び付けた取組を進めたいとの発言があった。

(三) ロランド・ゴンサレス人民権力全国議会国際関係委員会副委員長及びカルロス・グティエレス・キューバ・日本友好議員連盟会長との会談

冒頭、ゴンサレス副委員長から、議員団の訪問に対し歓迎の意が示されるとともに、友好議員連盟がこれまで両国の友好関係を強化してきたこと、また、同席しているグティエレス会長が日本議会から招待されたことに感謝するとの挨拶があった。

山本委員長からは、ゴンサレス副委員長及び友好議員連盟の会長を二十四年間にわたり務めているグティエレス会長と会談の機会を得たことに感謝するとの挨拶があった。

ゴンサレス副委員長から、人民権力全国議会の概要・構成、会期、選挙制度、議員定数削減などの議会改革の取組について説明があった。また、キューバに対する経済制裁を解除するよう米国に求める国連総会の決議に日本が賛成したこと、また、昨年フィデル・カストロ前国家評議会議長が亡くなった際、日本から哀悼の意が表されたことに感謝するとの発言があった。

山本委員長から、昨年日本の総理大臣が初めてキューバを訪問して首脳会談を行い、トップレベルで信頼関係を構築し、日本貿易保険（NEXI）の投資保険の再開やJICA事務所の開設など様々な分野で合意に至っている。キューバは飛躍的な発展を期待できる潜在能力を有しており、戦後急速な復興を遂げた日本のノウハウや技術を最大限に活用してキューバを支援していく必要性を感じているとの発言があった。

山本委員長の発言を受けて、ゴンサレス副委員長から、キューバは中長期的にどのような分野で経済発展が必要かまとめたリストを作成しており、日本企業がキューバに投資をする際の参考に紹介したいとの発言があった。

議員団から、早ければ本年秋に衆議院がグティエレス会長を日本に招待したいとの、古屋日本・キューバ友好議員連盟会長からの伝言を言付かっているとの発言があり、グティエレス会長から、日本に招待いただき大変光栄である。現時点では十月頃を予定しているが、早めに訪日日程を決定したいとの発言があった。

議員団から、経済の根本は国民生活の質の向上と個人消費である。キューバにおいて、一方でこれらの改善が格差を生み、日本企業がキューバへ投資、進出する際のリスクとなり得ることを懸念しているとの声も聞くが、この点を経済開発計画の目標ではどのように評価しているかとの質問があり、ゴンサレス副委員長から、現在二〇三〇年までの経済社会開発計画を策定しており、その中で、「平等」の実現を目指す方向性を示している。過去数十年間、キューバは「平等」を実現してきており、一九九〇年代の経済危機においても、他の中南米地域で混乱が生じる中、キューバでは政治的、社会的混乱もなく、「平等」を保ち続けた。近年の経済改革は、収入の差を生んでいることも事実であるが、同時にその差を埋める調整のための政策も考えており、現在の経済社会開発計画では、全ての人が生活の質を向上できる社会を目指しているとの回答があった。

また、グティエレス会長から、キューバは一九九〇年代において社会主義国として国際的にも孤立し、他国からの援助も受けられない中、社会主義を堅持し、

困難を乗り越えてきた自負がある。現在八五%の国営企業がキューバ経済を支えているが、国営企業の利益はキューバ国民全体に還元されており、外国からの投資もキューバ国民全体の利益になるので、心配せずにキューバへの投資を考えてほしいとの回答があった。

四、二〇二五年国際博覧会誘致

(一) 誘致をめぐる状況

国際博覧会とは、博覧会国際事務局（B I E）承認の下、国際博覧会条約に基づき、開催される博覧会である。我が国は、二〇二五年国際博覧会開催国に立候補しており、大阪への誘致を目指している。他の立候補国は、フランス（パリ郊外）、ロシア（エカテリンブルク）、アゼルバイジャン（バクー）の三か国であり、来年十一月のB I E総会にて投票により開催地が決定される。国際博覧会条約加盟国数は百七十か国であり、加盟国政府はB I E総会においてそれぞれ一票を有する。なお、今回の訪問国であるメキシコ及びキューバは、条約加盟国であり、訪問時点で投票態度を明確にしていない状況であった。

(二) 会談要旨

議員団から、二〇二五年国際博覧会の開催地として大阪が立候補しており、日本政府、大阪、国会議員団、経済界が一体となって誘致活動を行っている。国際博覧会では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、I o Tなどの科学・技術力、自然と共生した持続可能な社会など、将来の人類の在り方を提示する予定である。立候補している他の三か国はいずれも強豪であり、非常に厳しい選挙となることが予想される。日本との友好関係に鑑み、来年十一月の選挙では日本における開催を支持願いたいとの発言があった。

議員団の発言を受けて、メキシコでは、オリウエラ上院アジア太平洋外交委員会委員から、二〇二五年に大阪での国際博覧会を訪問できることを期待しているとの発言があった。

キューバでは、ベカリ・スポーツ・体育・レクリエーション庁長官から、二〇〇〇年のシドニーオリンピックの前の合宿で大阪を訪れたことがあり、大阪には良い印象を持っている。キューバ政府が前向きに検討できるよう手助けをしたいとの発言があった。

ヌニェス外国貿易・外国投資省次官からは、大阪の都市としての重要性は承知しており、日本からの要請について、所管の商業会議所に伝達したいとの発言があった。

ゴンサレス人民権力全国議会国際関係委員会副委員長からは、大阪が国際博覧会に立候補していることは承知している。既に委員会として、所管の商業会議所に対し、大阪を支持すべきであるとの考えを伝達している。最終的な決定は所管部局に委ねられるが、議会として大阪に良い印象を持っていることは伝達しているとの発言があった。

五、終わりに

今回の訪問では、メキシコ及びキューバ議会のメンバー、キューバ政府要人、キューバ・日本友好議員連盟会長との会談を通じ、国政の重要課題等について相互の理解を深めるとともに、各国において、先没者慰霊碑に献花を行う機会を得、当地で亡くなられた日本人、日系人の方々に対し、敬意と哀悼の意をささげた。

また、各国の日本企業で活躍している邦人の方々、キューバの J I C A 邦人職員との意見交換を通じて、現地での事業展開の労苦など、各国の事情や現地で活動していく上での課題や要望等について認識を新たにすることができた。

さらに、二〇二五年国際博覧会の開催地決定の投票を来年十一月に控え、日本政府、大阪、国会議員団、経済界が一体となって誘致活動を行っている中、各国それぞれの会談の場において、議員外交として大阪への支持を要請した。

各国への訪問に際しては、清水亨在メキシコ臨時代理大使、渡邊優在キューバ大使を始め、在外公館員等多くの方々の協力を得た。

報告を終えるに際し、各国の議会及び訪問機関の関係者、在留邦人、在外公館の方々的心より御礼を申し上げたい。